

法人格取得を考える時期^{と き}

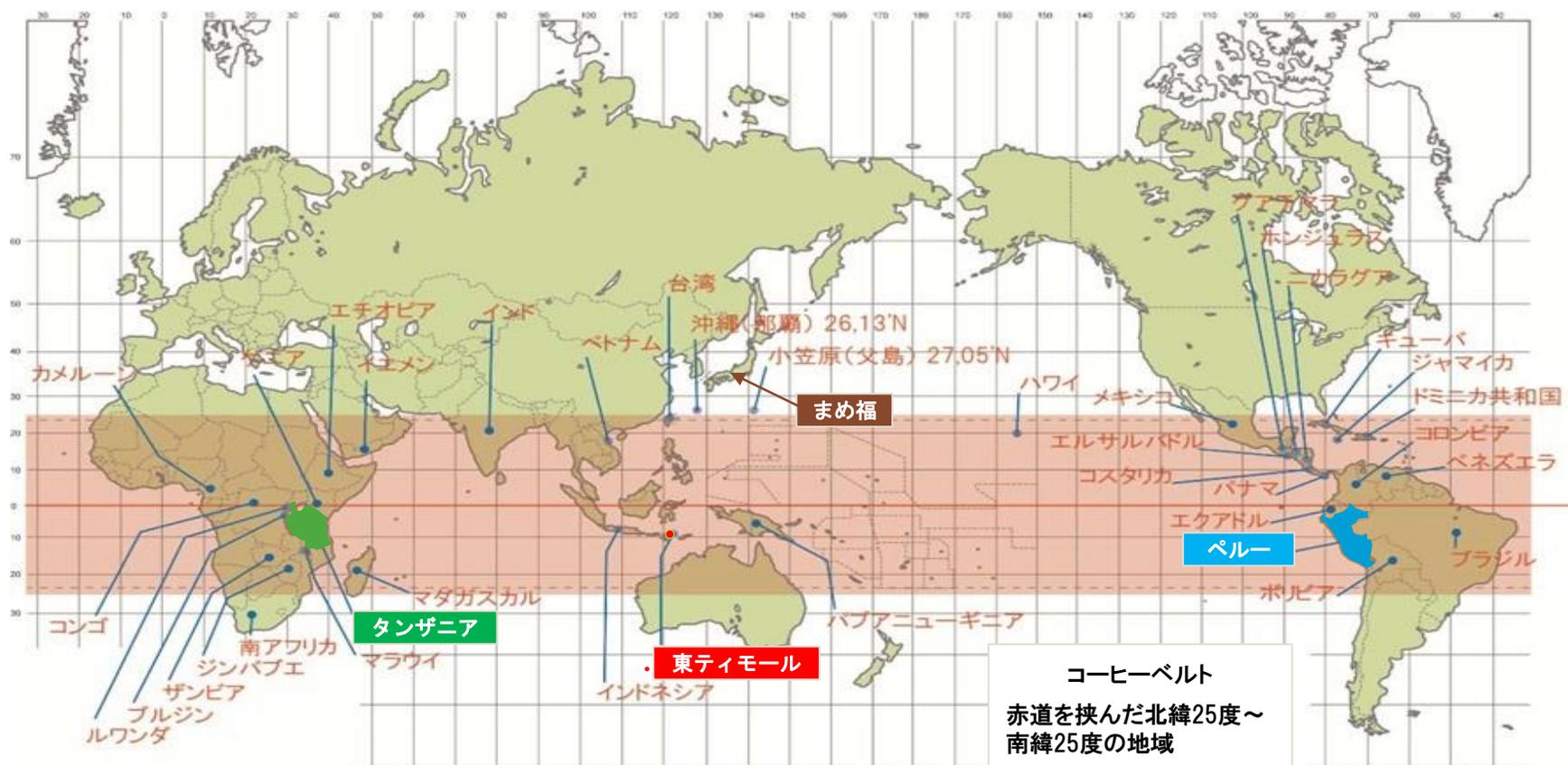
2022年10月29日（土）

コーヒー焙煎ワーカーズ

珈琲工房 まめ福

白江 祐子

コーヒーの生産国



アフリカで発見されたコーヒーは現在60ヶ国以上の国で生産されており、「コーヒーベルト」と呼ばれる地域に集中している
それらは、歴史的に植民地として欧米各国に支配されてきた地域でもある

不当な取引

コーヒー豆は世界市場において石油に次いで取引が多い国際相場商品

価格は、生産者からかけ離れたニューヨークやロンドンの先物取引所において、投機目的で決められる

生産者の80%を占める小規模農民は、相場によって上下する価格に翻弄され、正当な対価を得られない

複雑な流通経路

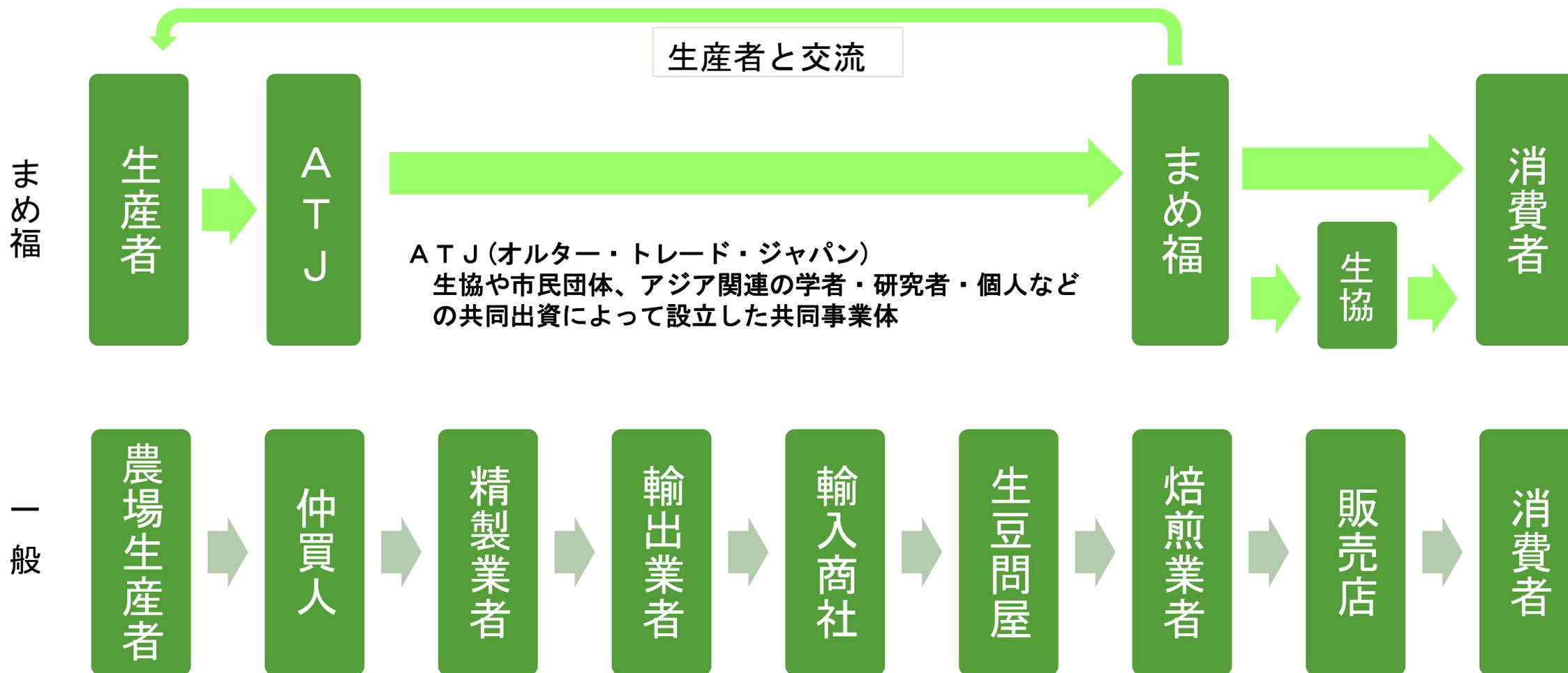


関与する多くの中間業者がそれぞれマーゲンを取るため、更に安い価格で買い取られることになり、生産者の貧困は深刻

一方、消費者にとっても、どこで、誰が、どのように作ったコーヒーなのか自分の飲んでいるコーヒーの素性を知ることができない

アジアにおける新たなコーヒー流通の提案

アジアを中心に生産者の自室支援を行ってきたオルター・トレード・ジャパンが、2002年に独立を果たした東ティモールでコーヒーの取組みを始めたことをきっかけに発案されたのが焙煎ワークスの設立だった



まめ福の設立

オルター・トレード・ジャパンの発案から3年後の2006年8月生活クラブ大阪の組合員4名によって「コーヒー焙煎ワーカーズ 珈琲工房まめ福」を設立

- ① メンバー全員が出資をし、事業主として経営に責任を持ち、全員が雇用労働ではない対等な立場で働く共同体
- ② 利潤追求を目的としない非営利事業
- ③ 自分たちでルールを作り、組織運営・事業運営も話し合い、合意形成のもと行う

現在のメンバーは15名 全員女性

平均年齢 51才 最高齢は81才

総事業高の96%が生協への卸販売

工房のようすと活動



入荷した生豆(麻袋入り)



生豆の手選別 ①



生豆の手選別 ②



焙煎 ①



焙煎 ②



焙煎 ③



焙煎 ④



袋詰め ①



袋詰め ②



一次加工

産地訪問(東ティモール)



コーヒーチェリーの手積み



子どもたちと

課題と展望

コロナ禍、円安の影響 → 自助努力に頼る事業運営に限界を感じる
社会の制度や仕組みに向き合う時期に来たのではないか
事業の社会的自立、働く者の経済的自立を実現したい

法人格取得への挑戦

- ・ 社会的信用、公的融資、契約
- ・ 店舗、独自販売の拡充

総事業高に占める生協と独自販売の割合を転換 → 生協依存からの脱却

- ・ 税制の壁を超える

収入の増加と「もっと働きたい」を事業運営の活力に → 社会保障の整備

労働者協同組合法における組織の基本原理「出資・意見反映・事業従事」の素地はある
合意形成を重ねて法人格を取得することでいい循環を生み出し、「食べていける」事業に
そして、第二第三のまめ福づくりにチャレンジしたい